

進に寄与することを目的として活動している実態の報告がありました。

また、以前は障がい児が生まれた場合に、ショックのあまり、見えない将来の不安や、子育ての難しさ等、相談する方法・手段が解らない保護者が多かったのですが、最近では同じ立場の障がい児をもった保護者が、適切・的確・丁寧な対応をするよろず相談や内容を整理して関係機関へつなぐという役割も重要な活動との事でした。

さらに家族という枠組みのなかでは、障がい者をもった兄弟姉妹の問題も重要なことです。現在、「全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会」というのがあって、障がい者をもった故の兄弟姉妹の悩み、相談等を行っています。友達、恋人に「自分の兄弟姉妹には障がい者がいるのやけど。」と言う事の複雑な難しさ等、障がい者をもった兄弟姉妹しかわかってもらう事ができないような悩みもあるそうです。

昼食を挟んで午後からは、たまに毎日放送の「ちちんぷいぷい」に出演されている、絵本作家の長谷川善史さんの「絵本ライブ」がありました。ウクレレを弾きながら登場して、自己紹介の後、絵本「じゃがいもポテトくん」の朗読から始まりました。

主なものはウクレレを弾きながらの「シバ犬のチャイ」、絵を実際に描きながらの「落語 鰻屋」や「いいから いいから」がありました。「いいからいいから」では雷の親子の話ですが、実際に来場者におじいさんのおへそを描いてもらう場面もありました。それから手遊び歌で「ゆかいな牧場」のメロディーにのせて歌う「大阪うまいものうた」では来場者と一緒に歌を歌いながら、手遊びをしました。その他、デビュー作の「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」ではユーモア一杯の朗読もありました。何か作品を通じて「平和が一番やなあ〜。」など温かいものを感じ感動しました。

初めての聴く絵本ライブでしたが、時間の経つのも忘れて聴き入ってしまいました。絵本って子どもが読むものと思っていたのですが、目からうろこで大人でも十分感動を貰う事が出来るものだと改めて認識し、楽しい時間を過ごす事ができました。

第20回全国経験交流ワークショップ in 前橋
に参加して

港第二育成園 副主任 佐久間 直人

平成26年7月25日(土)から26日(日)にか

けて、群馬県前橋市でソーシャルスキルトレーニング(以後SST)の研修である第20回全国経験交流ワークショップ in 前橋に参加してきました。

研修のご報告をする前にSSTについて簡単にご説明させていただきます。

SSTとは、生活技能訓練、社会生活技能訓練と訳されています。社会生活技能とは対人関係を中心とする社会生活技能、服薬・症状の自己管理などの自己管理技法、身辺自立に関わる日常生活技能のことをいい、これらの技術を会得するためのトレーニングということになります。

SSTは認知行動療法に1つとされる新しい治療法で、日本には精神病の長期入院患者の退院促進の支援の一環として導入され、現在では、医療機関や社会復帰施設、障がい福祉事業所、企業、矯正施設など多くの場所で実践されています。

このSSTを実施する目的としては、①その場にふさわしい言葉、行動、表現を身につける、②相手の考えや感情、働きかけにうまく対応できるようになる、③適切な自己主張や上手な関わり方を練習して、自分も相手にもストレスや不安を軽減させることの3つが挙げられます。

また、SSTを実施する際には、①本人の能力、努力、長所、強みを肯定的に認める(ストレングスモデル)、②本人の問題改善はもちろん、希望や自己選択、自己決定を尊重しリカバリーを助け、本人をエンパワメントする、③本人と支援者との共同作業によりトレーニングが進める、④アセスメントに基づき、本人のスキルを集約し、必要と思われるスキルを細分化し優先順位を決めて課題を設定する、⑤取り組む課題を繰り返し練習(モデリング・ロールプレイ)し、実際の生活の場面で使えるようにする、⑥実際に取り組んでいくことで、言語的・非言語的コミュニケーションのスキルを学習する、という6つを基本原則と挙げています。

具体的にSSTを実施する際には4~10名以内のグループに分かれ、次の手順で行います。

① 教示

そのスキルがなぜ必要か、そのスキルが身につけているとどのような効果があるかを言葉や絵カードなどを用いて説明します。

② モデリング

手本となる他者の振舞い(スキル)を見て学習します。また、不適切な振舞いも見てどこに間違いがあるか考えを出しあいます。